

教育目標		基礎学力の充実と規範意識の醸成を土台に、感性豊かな生徒の育成を目指す。			総合評価		
運営方針		基礎学力の充実と規範意識の醸成を土台に、コミュニケーション力、自己表現力、社会性を持った人材を育成する。 安全で安心な環境作りにも努め、一人ひとりの個性を伸ばし、志の高い「生きる力」を持った人材を育成する。 教職員が一体となって学校運営を進め、魅力と活力ある学校を目指す。					
平成26年度の成果と課題		本年度重点目標					
授業評価や研究授業を通して教員の授業力の向上、生徒の学力定着をはかるように努め、成果をあげつつある。生徒のあいさつの習慣や基本的な生活態度も改善されつつあり、学校行事などにおいても、節度ある態度をとれるようになってきた。更に学力の定着、規範意識の醸成とコミュニケーション力向上のための取組を進めていきたい。	学力的定着・向上と主体的な進路実現		授業改善に努め、学力の向上を図る取組を推し進める。キャリア教育を充実させ、生徒自らが主体的に進路選択できるよう指導する。		B		
	規範意識の醸成とコミュニケーション力、社会性の育成		生徒一人一人の理解に努め、けじめある生活態度や他者への思いやりの心を育成すると共に、自立心を育て社会の一員としての自覚を深めさせる。				
	心身の健康や体力の保持増進		教科指導や特別活動、保健指導等とおし、体力の向上を図り、健康への意識を高める。教育活動全体とおし、安定した細やかな心、強い心を育てる。				
	芸術教育の推進と交流活動の展開・発信		芸術教育の充実発展を図り、魅力と特色ある学校づくりに努める。交流活動とおし、地域や保護者、関係機関との連携を深め、情報発信に努める。				
評価項目	具体的目標 (評価小目標)	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策	
総務	学校行事等の円滑化と、儀式での集中力の向上	・各分掌・グループ・学年・学科との連携や調整を密に図り、学校行事の円滑な運営を目指す。 ・担任、副担任による列内指導や授業での適切なけじめある指導を通し、集会等で私語がない状態にする。	B	B	・主要行事では、各担当で協力、補い合い円滑な運営を行うことができた。 ・大きな声で何度も整列を促さなくても、生徒は自主的にスムーズに集合整列できるようになった。しかしまだ担当で服装面などの指導の徹底がのぞまれる。	体制に慣れて緩慢になっている部分がないか点検しながら、引き続き協力体制の強化と改良を図る。	様々な教育活動を行っていることに評価をいただいた。  引き続きホームページを充実させるなど情報発信をしつかり行って欲しい。
	広報活動の充実	新聞や各種メディア等を利用した広報活動を一層充実させるとともに、中学校・学習塾等への積極的な情報提供を図り、本校のよさを広く伝えていく。	B		・本校での学校説明会には、3回の実施で(本年度は普通科だけの説明会は実施できなかった。)、828名の生徒、保護者の参加があり、良い印象のアンケートが多かった。校外での説明会にも積極的に参加し、広報に務めた。 ・ホームページの更新が遅れ、情報発信が十分でなかった。	ホームページ作成研修会の実施と同時に、更新をうながす声かけを怠らないようにする。	
	情報インフラ整備に係るシステム構築を目指す。	・入試システムを再構築する。(ストレス無く処理できるシステムが作成できれば到達度100%) ・学校ネットワークシステムの運用マニュアルを作成する。(すべての担当者が活用できるものができれば、到達度100%) ・分掌等から要望に応えたシステムを作成する。(すべての要望に応えることができれば、到達度100%)	B		・入試システム再構築は、進行中。(60%) 入試業務を時系列で進められるシステムを開発中。 ・マニュアルは、各項目の作業詳細まで記述し切れていない。(60%) 系統的にまとまりのあるものまで作成できていない。 ・分掌等からの要望にはほぼ応えることができた。(95%)	これから始まる入試処理で検証しながら、課題と要望を明確にし、反映させていく。 ・各項目毎にわかりやすく整理する。	
	保護者との意思疎通の向上と同窓会活動の円滑化	・育友会学級役員との連携を図り、各行事への保護者参加率10%超を目指す。 ・同窓会総会、役員会等のスムーズな運営の手助け。	B		・各行事への保護者参加率を上げるための具体的な方策はできなかった。 ・総務部としての人員も安定し、スムーズな手助けはできている。ただ、後年へのつながりを考えると不安なところもある。	・事務室と連携しながら育友会との連携を強めたい。 ・若い年代の総務部員の配置が望まれる。	

教務	生徒の基礎学力向上、自主的な学習姿勢の向上を図る。	長期休業中の課題・課題テストの効果と運用の在り方を検証し、改良すべき点があれば、教科、進路指導部と連携して検討を加える。客観的な検証ができればB、検討し有効な改良ができればA。	C	B	B	・長期休業中の課題・課題テストのあり方については、昨年度に進路指導部、関係教科と連携・検討を行った。本年度はそれにしたがって運用した。十分な検討は行っていないが、運用については概ね順調に進んだ。	生徒の基礎学力向上、自主的な学習姿勢については、学年・教科による取り組みとして定着している。また、教育課程の見直し、総合的な学習について、今後も細部の検証や改善を継続するが、一定の成果を見ていると考えている。 今後は、学習指導と評価の改善、とくに観点別評価についての研究を進める必要がある。	奈良にふれる「奈良TIME」の学習を大切にしたい。また奈良のわらべ唄を扱って聞かされているのは有り難いというご意見をいただいた。
		「下学上達」に積極的に取り組ませる。その効果を各学年からフィードバックし、各学年の実態に即した内容を模索する。学年からの意見を整理できればB、それに基づいた成果があればA。	B			・「下学上達」については、学年と教科が連携し計画的に行われている。各学年とも学期は読書からはじめ、第1学年は漢字、第2学年は漢字と英単語。第3学年は英語長文に取り組んでいる。学年と教科を中心とした取り組みが定着し、生徒の基礎学力の定着に寄与している。		
	各学科、類型の特性や生徒の進路に適した教育課程の検討、編成をする。	学習指導要領に基づいて、各学科、あるいは類型の特性や生徒の進路に適した教育課程の検討を継続的に行う。検討の進捗状況により評価を行う。	A			・普通科Ⅲ類型(理系)において、発展理科(化学・物理・生物)の学習の充実からねらいにおいて教育課程の再編成を行った。		
		昨年度の「高志創造」実施内容と成果を引き継ぎ、より充実した学習内容にする。音楽、美術、デザイン科の「奈良TIME」の学習プログラムは、言語活動等の活動を視野に入れて再編を検討する。	B			・音楽、美術、デザイン科の「奈良TIME」の学習において、情報科の取り組みと連携し言語活動を重視した内容を取り入れた。		
進路指導	生徒の自発的な学習の啓発と主体的な進路実現の支援	・年間計画に沿って効果的に進路学習を進め、各学年におけるホームルーム活動、進路行事、集会を通じて、自己を振り返り、将来を展望する機会を増やす。 ・大学入試等に対応できる学力の伸長を目指し、生徒一人一人の進路希望に応じた進路対策講座の充実を進める。	A	B	B	・普通科対象に第1学年は類型選択前に生徒が希望する分野別に説明会、第2学年は就職・公務員・専門学校の説明と大学の模擬講義を実施した。第3学年は5日間で8校の大学別説明会を実施した。 ・第3学年は5月から第2学年は11月から実力養成講座、全学年希望者対象に受験サプリの登録(37名)、12月にオンライン講座を実施した。 ・英国数教科別に教員対象に進研模試に関する研修会を実施した。	・本年度から第1・2学年は進研模試、第3学年は進研・河合模試を校内で実施しているが、家庭学習につながるように、効果的な利用を考えていきたい。	高円高校との交流において、日頃から先生方がいねいに一人一人に指導していただいている成果として、日常的に文化的な活動に触れていることが考えられるというご意見をいただいた。
	進路情報の提供の充実	・「進路ガイドブック」の充実や「進路インフォメーション」の発行等による生徒及び保護者への啓発に努める。 ・個々の進路希望に対応した適切な進路情報を生徒・保護者に提供する。 ・ホームページ上での進路情報の発信を増やす。	B			・「進路ガイドブック」を全学年でHR・集会などで活用した。 ・「進路インフォメーション」ほぼ月1回のペースで発行した。 ・集会、三者懇談等で進路資料を配布した。 ・HPで進路行事の情報を発信した。	進路情報を精選し、有益な情報を提供することで、生徒・保護者の進路に対する意識を高める。	
	本校におけるキャリア教育の構築と推進	・生徒がキャリア デザインを描くためのガイドになるような機会や情報を提供する。 ・保護者対象のキャリア教育講演会を実施する。 ・看護体験学習、保育所・施設訪問への参加により、望ましい勤労観や職業観の育成を図る。	B			・普通科対象に第1学年で類型選択時に生徒の興味関心アンケート「夢ナビプログラム」を実施した。 ・第2学年全クラスで「進学事典」を利用して将来の進路を考えさせた。 ・第2学年希望者対象に就職・公務員・看護医療の分野別ガイダンスを3学期に実施した。 ・希望者による一日看護体験、希望者・家庭科による極楽坊保育園、ピア委員・音楽部による老人福祉施設訪問を実施している。	より多くの機会を準備し、体験することで個々の生徒がキャリアデザインを具体化できるように支援する。	

生徒指導	基本的な生活習慣の確立	・あいさつの徹底や遅刻の防止に努め、正しい言葉遣いの指導にも積極的に取り組む。特別な事情のない限り、全生徒が8:30には昇降口を通過できることを目標とする。同時にカットシャツ、ブラウスの第一ボタンを締めさせるとともに、服装を正し生活させる。	B	B	・昨年より挨拶はできる生徒が増加傾向にあったがまだまだ明るく、元気よく、爽やかにとまではいかなかった。 ・遅刻については昨年より約250件減少した。特に2年生の頑張りが目立った。今後も粘り強い指導が必要である。 ・服装については、概ね良好であった。又、カットシャツ、ブラウスの第一ボタンについては、登校指導等において一定の成果をあげることができた。	・来年度も引き続き目標にする。 ・一斉登校指導を実施する。 ・クラブ員を中心に明るく、元気な挨拶を実践させ、学校全体をリードするよう指導したい。	以前からバス通勤をしているが、生徒のバス中のマナーは向上しているというご意見をいただいた。
	日常生活におけるマナー・モラルの周知徹底	・登下校時における、公共交通機関でのマナー、モラルの周知徹底を図る。また、自転車事故や外部からの苦情等を少なくする。(昨年度の3割減を目標とする)	B		・自転車事故については大きな事故に繋がらなかった。また、交差点での接触事故が3件と昨年より2件減少した。(時間に余裕のない行動が原因と考えられる) ・外部からの苦情は6件(昨年比-1)。特別指導は10件(昨年度比+2)と増加した。又、2学期もバス乗車中の苦情があったため、生徒たちの規範意識の向上に向け努力したい。	・全校集会や、各種講演会を実施し更なる向上を目指したい。 ・各機関から提供された情報をHRなどでアナウンスし注意喚起に努める。	4月にJR奈良駅前のバス乗り場の位置が変更になり混乱を予想したが、本校生が他のお客さんを優先的に先に乗車させている姿が印象的であったというご意見をいただいた。
特別活動	生徒の自主的・自発的な活動の推進	・文化祭等の学校行事への関わり、校内・校外美化活動、あいさつ運動などへの積極的な参加を奨励、推進する。 ・集会、学校説明会などの活躍の場を生徒会役員に積極的に与える。	B	B	・体育館工事で文化祭の実施形態が直前まで不確かであったが、不自由な中にも新しい企画や工夫も生まれ生徒の満足度も例年を下回ることはなかったと思う反面、生徒会役員の自発性を期待するには制約がありすぎ活躍の場は十分に与えられなかった。	・行事に追い立てられず原点に立ち返り、生徒自身ができること、やってみようことを点検し直す。	文化祭に保育園児を招いていただいたよ交流ができた。また児童も楽しみにしているというご意見をいただいた。
	学科間の交流、部活動の活性化	・フットサル大会(球技大会)を生徒会主催で開催し、学科・各部門間の交流を活性化させる。 ・芸術科の様々な活動を学校全体の活動と捉えられるように、生徒会がその架け橋となるべく活動の方策を探り、実践する	C		・最初の生徒会の活動であるフットサル大会は警報のため実施できず、学科間の交流といえる活動もそれ以降できていない。	・高等養護生との交流を積極的に行い、学科間の絆や自覚をより強固にする。 ・クラブの運営規則もスリム化し次段階の目標設定を定める。	素直な生徒が多く、保育園の交流でも子供目線にたって交流していただいて有り難いというご意見をいただいた。
	図書館利用、運営の活性化	・クラス文庫用の図書を充実させるとともに、クラスへの図書館利用を積極的に働きかける。 ・課題研究や資料学習等、教科での図書館利用を一層活性化させるために、各教科との連携を深める。 ・まずは来館(室)者を増やす努力を心がける。	A		・図書館が「憩いの場」となるよう来館しやすい雰囲気作りには成功している。更には本に興味を持たせるべく多方面での努力は継続している。図書委員にも幅広い活動を予定している。 ・1年生の教室に入学記念品として小さな本棚を贈呈した。	・図書委員を中心に生徒から発信していく図書館活動を目指す。 ・教科指導でも利用しやすい図書館を目指す。	

健康安全	校内・校外美化の徹底と防災、防火に関する意識啓発を計る。	・校内及び校外美化活動を各学期に1回実施する。 ・避難、消火訓練を通して防火・防災の意識向上をはかる。	B	B	・校内・校外美化活動に参加する美化委員の美化に対する意識も高く、熱心な取り組みができた。 ・避難、消火訓練は例年並の取り組みができたが、より実用的な内容を取り入れたい。	・月末大掃除の改善をはかる。	生徒の学習環境がよくなるように引き続きよろしく願いますというご意見をいただいた。
	健康状態を把握し自己管理できる生徒を育成する。	・保健委員会の活動を通して健康意識の向上をはかる。 ・保健だよりを月1回発行し、健康意識を高める。	B		・保健委員会活動は、保健目標ポスター制作や文化祭展示発表等、熱心に取り組めた。 ・レシビ甲子園においても今年度は入賞はできなかったが、多数応募することが出来た。	・引き続き保健だより、文化祭展示発表を通して健康意識の向上をはかりたい。	
	スポーツテスト、体育大会、長距離走大会の安全な運営を目指す。	・体育委員会の活動を通して各大会の円滑な運営をはかる。	B		・体育委員を中心に運動部員、体育科の協力のもと各大会の安全かつ円滑な運営がはかれた。	・芝生の管理計画について検討が必要である。	
人権相談	人権に関する知的理解と人権意識、感覚の向上をはかる。	・現地研修及びバルツァゴードルでの研修を通して、人権問題に対する意識の向上をはかる。	B	B	今年度は横井支部での現地研修を実施できた。婦人部の方の話とフィールドワークで充実した研修になったと思われる。バルツァゴードルでの研修も例年どおり実施できた。デートDVの講演会は今年も好評だったので、来年度も実施したい。解放研の活動と職員対象の講演会・研修会を実施できなかった。人権作文集を3学期のLHRで使える時期に配布できた。	横井支部との交流は本校の人権教育の元として継続していきたい。横井支部との交流以外の職員研修の機会も持ちたい。	奈良北高校の事はショックを受けたが、多感な時期の高校生の配慮についてよろしく願いますというご意見をいただいた。
	生徒の交流を充実させ、共に生き、共に育つ仲間集団作りの取組を進める。	・奈良養護学校、バルツァゴードルとの交流会を年4回実施する。 ・音楽科とも連携し、新しい交流会の形を作る。	A		奈良養護学校、バルツァゴードルとの交流会を年4回実施するとともに、コーラス部も3月に交流会を実施する予定である。講習会等で参加できない生徒もカードを作ったり、様々な形で参加できた。参加生徒のアンケートも良好であった。	交流委員が全員参加できるような日程も考えていきたい。	
	特別支援教育の充実	・ピアクラブ委員会を月1回実施する。 ・ピアサポーターとの連携を深め生徒理解に活用する。 ・関係機関と連携し、生徒・保護者に適切な援助を行える力を高める。	B		グループホーム雪月花訪問に向けての研修を行った。またピアサポーターは本校に来てくれる時間等の調節は必要であるが、生徒たちには必要な存在になっている。スクールカウンセラーも今年後半は何とか確保出来たが、これからも必要不可欠だと思われる。	スクールカウンセラーの確保とピアサポーターを含めた大学との連携が課題である。	

第1学年	きれいに制服を着用する。欠席・遅刻・早退をしない。あいさつ・返事をしっかりする。正しい言葉遣いを身につける。ルールや期限を厳守するなど基本的な生活習慣の確立と規範意識の醸成を図る。	あいさつの励行、敬語の徹底や遅刻の減少に努める。(各学期5回以内、年間15回以内を目標とする。)服装・頭髪等を直すなど、高校生としての自覚を促す指導を徹底する。	B	B	遅刻指導をした生徒は8名。昨年度に比べ増加傾向である。頭髪指導をした生徒は10名。いずれも素直に指導に従って改善している。特別指導をした生徒は7名。入学当初に比べて随分高校生らしくなってきたが、まだまだ自覚が足りない生徒がいる。	常習的に遅刻を繰り返す生徒には、2学期より遅刻指導を強化した。頭髪指導は、3年間継続指導する。	特になし
	基礎学力の向上のため、予習の仕方から丁寧に教え、課題や小テスト等を課し、家庭学習の習慣づけを行う。できたことを認めることで積極的な学習態度を育成する。	家庭学習を定着させるため、ノートや課題の提出等について工夫させ、全生徒が家庭で学習する習慣づけを行うとともに、課題提出の厳守を徹底させる。「下学上達」に積極的に取り組み、基礎学力の定着を図る。	C		課題の提出状況は、学期進行とともに徐々に改善しているが、まだ完全にはできない生徒がいる。家庭学習については、あまり増加していない。「下学上達」には静かに取り組んではいませんが、主体的に取り組む姿勢が乏しい。	更に粘り強く点検・指導を繰り返して、定着を図る。目標を設定させることで、主体的な学習態度を育成する。	
	教科指導や部活動をとおして、自己表現力、コミュニケーション力、社会性の獲得を目指す。	体育大会や文化祭など、学校行事や学級活動に積極的に参加させることで、仲間づくり、他の生徒を尊重する態度、規範意識を持たせる。	B		奈良TIMEで実施した百人一首カルタ大会では、消極的な生徒はほとんどなく、グループでなごやかに楽しむ姿が好ましかった。行事などをとおして仲間づくりが進んだ一方で、LINEによるトラブルが多発している。	LINEによるトラブル対策の強化が必要である。	
第2学年	基本的な生活習慣を身につけさせ、本校生としての誇りと自覚を持たせ、規範意識の高い生徒に育てる。特に時間を厳守する態度を育てる。	遅刻・早退・保健室利用生徒の人数の減少に努める。(学期5回以内、年間15回以内を目標とする。)服装・頭髪等を直すなど、高校生としての自覚を促す指導を徹底し、集団行動の中で規則や規範の重要性を実感させる。(特別指導を要する生徒の人数を、年間で学年生徒数の3%以内を目指す。)	B	B	服装・頭髪等は良好である。数少ない違反生徒についても、指導により即刻改善されている。遅刻指導該当者数が1学期5名から2学期6名と増加したが、出席状況の昨年度比較68%・経年比較45%に減少できた。生徒指導部による特別指導を要した生徒は1名(0.4%)であったが、2学期に入った直後些細な校則違反による指導が増加した。基本的な生活習慣の確立・規範意識の向上が求められる生徒が多い。	遅刻日の放課後に1時間の居残りを課し学習指導を行っており、服装・頭髪・遅刻等の指導についても今後も同じ形で継続していく。	特になし
	一人ひとりの人間の個性を尊重し、共に支えあう態度を養う。	人権教育HRや学年集会・総合的な学習の時間など、さまざまな機会をとらえて自己を見つめさせ、「認め合う」姿勢を養う。	B		すぐに目に見える成果が出ることはないが、文化祭・体育大会・修学旅行等によりクラスの間関係が改善したところもある。つらい立場にある生徒にうまく寄り添う姿も見られた。	人権教育HR・講演会などさまざまな機会をとらえて、継続して取り組む。	
	学力の更なる向上および、主体的に取り組む学習態度の修得、課題提出の厳守と家庭学習の習慣化を図る。	課題の提出を全生徒に厳格に守らせるように徹底する。(課題提出遅れゼロを目標とする。)家庭学習を定着させるため、予習の仕方から指導し、全生徒が家庭で予習する習慣づけを行う。	B		1年次に比べると全体的に課題提出状況は良くなってきたが、少数の特定生徒の課題未提出や提出遅れが見られる。家庭での学習が定着するようにテストもしている「下学上達」の時間には、「漢字トレーニング」の教材により「漢字検定」2級合格の範囲まで徹底して学習することができた。後半からは、「英単語ターゲット1400」の教材により徹底した英語力の向上に向けた学習の展開を図っている。	保護者と連携をとりながら個人面談や三者面談を実施するとともに、放課後に1時間の居残りを課し課題等の完成や「下学上達」のテスト不合格生徒に対する指導を行っている。	

第3学年	<p>礼儀・マナーの大切さに気づき、基本的な生活習慣を定着させるとともに規範意識を高める。</p>	<p>遅刻・早退・保健室利用者の人数の減少に努める。(1学期5回以内、年間15回以内を目標として、全体として前年比20%減を目指す。) 服装・頭髪・言葉遣い等を正すなど、高校生としての自覚を促す指導を徹底し、集団行動の中で規則や規範の重要性を実感させる。(特別指導を要する生徒の人数を年間で学年生徒数の3%以内を目指す。)</p>	B	B	<p>2学期末までの出席率は98.0%で、大部分の生徒は安定して登校できている。しかしながら遅刻については2学期までで総数689回を数え、特に2学期後半から大きく増えてしまった。特別指導は1件で、全体として学年が上がるにつれて落ち着いた感じが見受けられた。しかし一部の生徒で、年齢相当の対応・着こなし等ができない残念な生徒もいて、継続した指導が必要であった。</p>	<p>ゲームやスマートフォンに依存し夜型生活になっている生徒が多い。保護者と連携し早寝や朝食を摂るなどの生活習慣を見直す指導を行う。</p>	特になし
	<p>心身の健康を保持増進するとともに、一人一人の人間の個性を尊重し、ともに支え合う態度を養う。</p>	<p>人権教育HRや学年集会・総合的な学習の時間など、さまざまな機会をとらえて自己を見つめさせ、「認め合う」姿勢を養う。</p>	B		<p>人権意識を高めるためにあらゆる機会を通して取り組んできた。しかしながらSNSによるトラブルや、クラスメートに対する陰口・からかい・嫌がらせなど年度初めに起こってしまった。人間関係をうまく構築できない生徒が少し増えてきたように思われる。</p>	<p>いじめ等を早期発見するためにカウンセラー室の充実を図る。さらに人権教育を推し進め、仲間作りや他者との人間関係を築くための取り組みを行う。</p>	
	<p>各生徒が目標とする進路を実現できるように必要な支援を行う。</p>	<p>各種ガイダンス、面接講習、学年集会、三者面談などを行い、進路に向けての意識・意欲を高める工夫を行う。</p>	B		<p>学級担任を中心にきめ細かく指導が行われ、1学期から進路に向けての意識を高めることができた。ただ不安感を感じ指定校推薦やAO入試で早くに決定してしまった生徒も多くいて、2月まで計画的に取り組みをさせることができなかった。</p>	<p>センター入試や一般入試まで受験勉強を安心して進めていけるような情報提供を行う。</p>	